

令和7年（2025年）度行政評価シート【個表】

令和 7 年 6 月 20 日

評価対象事業		評価者	消防総務課長	中嶋 仁孝
消防-01	消防運営事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	主管課	消防総務課
		<input type="checkbox"/> 法定受託事務	関連課	
総合計画上の位置付け	分野	5-(1) 防災・安全	施策の方針	5-(1)-③消防機能の整備・充実

1 事業の目的

対象	消防職員等
意図	職員の健康管理、事務の効率化、各団体との情報交換等を実施し、消防業務の円滑化を図るため。
効果	職員の元気回復・体力増進、消防業務の効率化を図り、県、国レベルでの災害応援要請等があった場合の活動体制を確立し、迅速な活動をめざすとともに各自治町内会、企業等、地域ぐるみの市民等の防火防災意識を深めることができる。

2 令和6年(2024年)度を実施した事業の概要

旅費、各署所の光熱水費、負担金等の執行、寝具類の賃借及び職員への被服の貸与など消防に係る一般事務を行った。
職員の保健、元気回復その他厚生に関する事項について計画し実施した。
消防出初式は、2年ぶりに開催した、防火防災意識の向上を図った。

3 事業を構成する事務事業(最小事業)実績

枝番号	事務事業	実施した主な事業 (主な経費等)	指標(単位)	令和6年度		令和7年度	達成度
				指標(実績値/目標値)	事業費(決算/当初)(千円)	指標(目標値)	
01	消防運営事務	光熱水費、寝具類賃借料等	-	- / -	51,590 / 59,814	56,114	-
02	消防職員採用試験事務	消防職員採用試験委託料	「採用者数」/「採用予定者数」(人)	9 / 7	201 / 224	224	128.6%
03	出初式事業	消防出初式参加団体等報償費	「観覧者数」/「観覧予定者数」(人)	650 / 1,000	648 / 744	701	65%
04	消防職員研修・教育事務	神奈川県消防学校初任教育等負担金	「実人数」/「予定人数」(人)	12 / 12	5,107 / 5,599	3,336	100.0%
05	消防職員福利厚生事業	職員福利厚生に係る事業委託料	「予算執行額」/「予算額」(%)	3,010 / 3,958	3,010 / 3,958	3,991	76.0%
06				/	/		
07				/	/		
08				/	/		
09				/	/		
10				/	/		
		財源内訳	国県支出金	/	/		
			地方債	/	/		
			その他特定財源	11,993 / 3,409		3,119	
			一般財源	48,563 / 66,930		61,247	
			事業費の合計(千円)	60,556 / 70,339		64,366	
			人件費(千円)		33,100	35,529	

4 この事業に関わる職員数(毎年度4月1日時点)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
正規職員等	4.5	4.5	4.0	3.0	4.0	4.0
会計年度任用職員	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0

5 評価結果

(1) 最小事業評価

枝番号	事務事業	指標分析の推移、目標未達の理由	上位施策にどう寄与したか、構成する事業としての妥当性	事業実施上の課題、改善点
01	消防運営事務	消防署所の運営経費、消防職員の活動経費、公共料金など義務的経費の執行と一般事務処理のため、指標の設定なし。	消防職員の災害活動、訓練、安全管理、衛生管理を適正に行うことで、円滑な災害対応がなされ、災害に強いまちづくりに寄与	特になし。
02	消防職員採用試験事務	退職、研修等により消防職員の欠員が生じないよう適正に採用を進めるための事業。	消防本部主催のワンデーインターンシップや採用広報を通じて人材の確保に努めることで、職員の新陳代謝による消防力の低下を防ぐ。	定年延長制度の導入に伴い、継続した採用及び適正な人員補充計画が必要となる。幅広い人材確保が必要である。
03	出初式事業	新年1月に挙行し、活動顕著な自主防災組織、事業所に対して表彰を行う。	消防出初式挙行時に、自主防災組織や事業所に表彰を行うことにより、火災、風水害等の災害に関心を持ってもらい、災害に強いまちづくりに寄与する。	出初式の実施時期や内容の検討が必要である。
04	消防職員研修・教育事務	消防大学校や神奈川県消防学校などで実施する各種研修に参加するとともに、大型自動車免許の取得希望者に奨励金を支出する。	消防活動に必要な部隊配置人員を確保しつつ職員研修を実施することで消防・救急・救助体制を充実する。	大型免許取得奨励事業は、予算額が希望する奨励金対象者数を下回っている。希望者全員が奨励金制度を利用できるよう検討していく必要がある。
05	消防職員福利厚生事業	元気回復事業などを活用することが主な目的である。	職員の保健、元気回復その他厚生に関する事項を実施することで、消防業務の円滑化を図る。	特になし。
06	0			
07	0			
08	0			
09	0			
10	0			

(2) 視点別評価

効率性	事業費の削減余地はないか	1 事業費の削減余地はない
	事業の外部化(民営化・業務委託等)はできないか	1 実施済み
	関連・類似する事業の統合はできないか	3 統合できる事業はない
妥当性	各事業の実施に対する市民ニーズはあるか	1 市民ニーズは変わらずにある
	民間によるサービスで代替できる事業はないか	3 民間によるサービスで代替できる事業はない
有効性	事業の上位施策に向けた貢献度はどうか	1 目的達成のために適切な手段(最小事業)である
公平性	受益者負担は公正・公平か	△.負担未導入 △-3 受益者が特定できないため、受益者負担を求めることができない
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	△.協働未実施
		△-2 市民等と協働して実施する事業はない 協働実施済の場合のパートナー

(3) 総合評価 ※最小事業評価を踏まえて、今年度以降の取組方針等を記載する

【今後の方針】	<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 改善・変更	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 休止・廃止
職員に最新の専門知識を取得させ現場活動に生かすことが重要である。部隊配置の人員を確保しつつ、引き続き積極的に研修に参加させていく。					
鎌倉消防の魅力をより多くPRするとともに、幅広い人材確保が必要となるので、採用方法を検討していく。					
消防出初式は、市民の防火意識を高める場のひとつとして、継続して実施する必要があるが、鎌倉らしさを残しつつも出初式の時期、内容及び場所などを検討していく。					

【参考】

◎事業実施に係る主な指標

指標(単位)	職員研修による知識等の向上						単位	%
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
専門的な知識を取得させ、市民の安心・安全に反映させるため	目標値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
	実績値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		
	達成率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

指標(単位)	消防出初式開催による防火意識の向上						単位	%
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
市民に対して積極的に消防をアピールする場である。 また、消防行政への理解を深めてもらう機会に繋がる。	目標値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
	実績値	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0		
	達成率	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%		

◎他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項							
団体名	鎌倉市						
他市実績							

当該事業実施に伴う 他市比較に関する考え方	
--------------------------	--